

# 1年 音楽科 課題2

今回は佃中学校の校歌を歌えるようにしましょう！

① まず、この校歌を作詞された高田 敏子先生のお話を読んでください。

## 「作詞者 高田 敏子先生のお話」(佃中学校開校5周年記念誌より抜粋)


高田 敏子先生：中央区出身の詩人

このたび佃中学校の校歌を作詞させていただき光栄に存じます。私は日本橋生まれで、幼い頃父に連れられて佃・月島へ夏休みなど、遊びに参りましたので大変なつかしく思います。8月に詩をつくるために見学にまいりましたところ、素敵な校舎なので校舎をうたいこもうと思いましたが、校舎は古くなります。私の皆さんに対する希望、このような生き方をさせていただきたいということをお願いしました。

「自然と話ができることが大切」であり、悲しいこと、つらいこと、自己嫌悪に陥ったり、絶望したり、社会に出て理想通りにいかなくて悩むことや、人が信じられなくなることもあるでしょう。そんな時、「空の目は私をみていてくれるのね。」「風が私にはなしかけてくれるのだわ。」と自然との会話をすると勇気がわいてきて自分を力づけて生きてきました。自然と会話することができたなら、たったひとりになって孤独になったときも自然から学ぶことができます。「物から学べ」とゲーテがいます。1つの小石でもじっと見ていると小石の氷河で耐えた年期とか、これはどこでとれた小石だとかいろいろなことを学ぶことができます。物から学ぶ心を一生持ち続けてほしいと思います。ですから「風・風」という出だしです。大海原を渡ってきた風が、東京湾を通して、佃中学校に吹き寄せてくる、そんな時「ああ、風が何か言っている。」風の言葉を聞いて、「未来をめざし、希望に燃えて世界にはばたくのですよ。」と風が言っていると思うことのできる耳をもつことが、勇気をもって生きていく力になるのではないのでしょうか。

2番は、どこへ行っても、どんなに年月がたって、必ず、風と空はございます。それを友にして、たえず自分を励ます言葉を風や空から聞き取る耳をほしいと思います。みなさんの若々しい成長している姿を見ると胸がいっぱいです。私達大人は、みなさんに希望をかけて、願いをかけています。世界の人達と交流して、愛と理想と知識とを、しっかり身につけて、皆さん自身も幸せにまた世界の人のために役立つような大人になれることを希望しております。

私達の時には、戦争があり、つらく悲しい思いをしてまいりましたが、どんなときでも自分を励まし続けて生きていくという以外はないと思います。みなさんにはつらいとおもいますが、いくらでも勉強ができる時代ですから、どうぞ、今、若い時にたくさんの知識を身につけて、そして意義のある人生を送ってください。

② 佃中学校ホームページの校歌のパナーから入り校歌の歌詞の下の校歌  をクリックすると校歌が流れます。歌詞を見ながら歌えるように練習しましょう。

☆ 現在PCでしか流れません。聴くことのできない人は、後日何らかの形で聴いていただけるようにしていきます。聴くことのできない人は歌詞をよく読んでおきましょう。

